

うわさや迷信に  
左右されないで

皮膚のギモンにこたえます！



# 久保先生の子ども診療所

今回のテーマは

## 子どもの低温やけど

### 低温やけどとは

低温やけどは、短時間の接触では問題とならない程度の温度の熱源が、長時間にわたって接触部に作用することにより起こるやけどです。44℃で6時間ほど続けて刺激を受けると、軟膏治療では治らないほどの深いやけどを起こすと言われています。

### 症状は？

火やお湯などによるやけどと違い、水ぶくれを起こしにくく、何か赤くなっている、何となくひりひりする、何となく痒いなど、表から見ると軽い症状なのかなと受け取られるパターンが多いです。が、その時はすでに深いところまでやけどが進行していることが多く、時間が経つにつれて深くまで傷んだ部分のはっきりしてきて、皮膚潰瘍を作ったり細菌感染を起こしたりします。

### 病院にはいつ行く？適切な処置は？

暖房器具を使用していた、何か温かいものを触れていたなど、低温やけどを少しでも疑った場合は、すぐ受診してください。痛がっていないくてもやけどが深くまで及んでいることがあるので、受傷部位を冷やしながらか受診することをお勧めします。

### 原因は？

冬場の寒い時期に使用頻度が増える、湯たんぽ、こたつ、あんか、電気毛布、カイロ、ファンヒーター等の暖房器具による受傷が多いです。子どもの場合、カイロをポケットに入れっぱしにしたり、こたつやホットカーペットに長時間うたた寝することで、低温やけどを起こす患者さんをよくお見受けします。



### 低温やけどが重症化すると・・・



ホットカーペットの受傷例。  
赤い部分は浅いやけど。  
黒い部分は皮膚の深部・脂肪・  
筋肉まで及んだやけど。

### お父さん・お母さんへ

子どもを寒がらせないように！風邪をひかせないように！と大事に思う気持ちは分かります。が、何事も過ぎたるは及ばざるが如し！暖房器具を使用する場合は、それほど熱いと感じなくても、同じ場所に長時間使用しないように気をつけましょう。また使用しているということを自覚しておく(=忘れない)ことが大事です。

### 教えてくれたのは・・・

久保皮膚科は、鹿児島で初めての皮膚科クリニックとして長年にわたり皮膚科医療・地域医療に従事し、現在の院長は三代目。野球の大好きな院長先生は、ホークス検定の所持者。そのおもしろい人柄で子ども達にも大人気です。



久保 秀通 院長

皮膚科・アレルギー科  
**久保皮膚科**

099-248-1311 鹿児島市上竜尾町 5-19

